

2009年3月1日

印旛普及だより

第15号

〒285-0026 佐倉市鎗木仲田町8-1 TEL:043-483-1130 FAX:043-485-9502
ホームページアドレス <http://www.agri.pref.chiba.lg.jp/apcenter/inba/>
発行：印旛農林振興センター振興普及部改良普及課・印旛地域農林業振興普及協議会

印旛の代表的農産物
スイカの安定生産に向けて！

昨年末の十二月二十五日、印旛地域農林業振興普及協議会と印旛農林振興センターの共催で、「スイカ安定生産に向けた輪作物の現地検討会及び研修会」を富里市で開催しました。



レタス圃場での現地検討

おもな内容は、スイカで発生しているホモプシス根腐病菌による急性萎凋症対策のため、太

陽熱消毒実施期間が確保できるスイカ後作作物について、圃場での現地検討を行いました。

その後、JA富里市を会場に、昨年悩まされた天候不順による着果不良を回避するため、雄花の保存方法や花粉専用品種の活用事例について、株式会社 萩原農場技術部 吉村将一氏より講義を受けました。また、振興センターより、キュウリ幼苗を用いた、圃場のホモプシス菌密度の評価方法を説明しました。

一 ホモプシス根腐病菌

この菌は糸状菌(カビ)です。ウリ類の根に感染、増殖し、水分の吸収を妨げ、菌密度が高いほど早く萎凋症状が現れます。

萎凋した根の残渣が感染源となり、三年以上は土中で感染能力を保持しています。防除のためにはクロルピクリンくん蒸剤が有効です。また、比較的高温に弱い菌なので、三十五℃以上

の積算時間が百時間で防除できるため、ハウスでの土壌還元消毒や、露地においても梅雨明けから一カ月程度トンネルを密閉し太陽熱消毒を実施することにより、栽培によって増えた菌の密度を減らすことができます。

実例として、平成元年にメロンホモプシス根腐病が発生した神奈川県三浦市では、後作のダイコンの播種が始まる九月までのトンネル密閉か、または殺セチンチュウ剤処理と全面マルチ被覆を実施し、熱による防除に成功しています。

二 スイカ後作品目の検討

印旛地域では、トンネルスイカ後作の秋冬ニンジンの播種時期が、太陽熱消毒の効果が高い時期と重なります。そこで、九月以降に栽培が開始でき、特殊な機械装備が不要な品目としてレタス、ニンニクの試作圃場を視察しました。

今回のレタスの試作では、保温にスイカのトンネル資材を再利用し、十月上旬の定植で、十月上旬から収穫できました。

また、ニンニクは早生の「暖地型」を試作しています。

萎凋症多発圃場では、菌密度を減らした上で、これらの品目を検討してはいかがでしょうか。

三 スイカの安定着果技術

安定着果のためのポイントは、①質の良い雌花の着生、②花粉の安定的な確保、③交配期の環境条件の三点であり、今回の研修会では②について重点的に説明をいただきました。

(1) 開花当日の雄花の貯蔵

●花粉が十分出たら、できるだけ早く雄花を採取し、結露しないように乾燥したタオルやシリカゲルを入れたプラスチック等の容器に並べ、8〜10℃で貯蔵する。貯蔵期間は二日が限度。

(2) 開花前日の雄花の利用

●翌日開花する雄花はできるだけ日没直前に採取し、タッパー等の容器の底に軽く湿らせたタオルを敷いて蕾の乾燥を防ぐ。

●風呂の蓋の上など、25〜28℃に保温し、10時間程度光が当たらないようにする。その後、光に当たると花卉が開き、人工交配しやすい。

(3) 花粉採取専用品種の利用



SA-75の花

●「SA-75」は、栽培品種より二〜三週早く播種する。

●育苗ハウス内に電熱線を引き、四寸ポットで育苗した株をそのまま並べ、ツルを一定方向に伸ばす。(摘芯はしない)

(引地 睦子)

種の力を最大限に引き出すための水稻育苗管理

一 昨年の傾向と反省

平成20年度の水稲育苗期(3月〜4月)は全体的に気温が低い傾向にありました。低温により弱った苗にカビが繁殖し、苗の一部もしくは全体の生育を抑制した例も多く見受けられました。また、「出芽、生育の不揃い」の場合も多く、例年よりも「種子」の持つ発芽・出芽力の差が現れやすかったようです。

二 今年の対策

種の力を最大限に引き出す基本技術を確認しましょう。技術のポイントは4つに分けられます。

(1) 塩水選

未熟種子を除去することで、発芽率が高く、生育揃いのよい精選種子が得られます。

(2) 種子消毒

種子から伝染するものにも

ち苗、馬鹿苗病、細菌性苗立枯病があります。ほとんどの買った種は消毒されていませんので各自で行う必要があります。

(3) 浸種

個々の種子の休眠程度は異なるため、発芽を揃えるために行います。10〜17℃、積算100℃(平均水温×日数)を目安とします。低温期でも水温は10℃以上に保ちましょう。

(4) 催芽

出芽を揃えるため、浸種を終えた種籾を育苗器などで30℃に加温し、幼芽長が1mm以内の鳩胸状態にします。

それぞれの作業がもつ効果や意義を確認し、均一な出芽となるよう播種準備を行きましょう。

また、稚苗育苗の場合、最適播種量は130〜150g/箱です。高密度の環境は細菌病菌の繁殖を促進するため注意が必要です。

次期改善計画の作成

■はじめに

前号からの続きで今月号は、我が家の二一年の改善計画の作成についてお話しします。前年の経営実績を取りまとめ、て税務申告を済ませた人、ただいま集計中という人もいると思います。

その税務申告に使った決算書を活用して平成二一年に向けた経営改善計画を作成してみましょう。

○決算書の分析

まず前号でお話した、「収益性」や「生産性」がどうであったかを決算書から読み取ります。

経営者は、前年より少しでも経営に改善を加えて収益を高めていく工夫が必要になります。そのため作業が分析作業です。(下表参考)

平成二〇年は、燃油・飼料・肥料・各種農業資材の高騰と

農畜産物価格の低迷もあり、どこの農家も収益性が低下していると思います。

その原因は、資材高騰だけにあったのか、他の要因がなかったのかを調べます。

資材高騰は、平成十九年と比較してどの程度上がったのか。農畜産物の販売金額がどうであったか。

品目別の販売量や単価はどうであったか。

経営に参加している奥さんや後継者の人たちとともに考える事が大切です。

このことで我が家の経営の問題点を明確します。

○目標設定

次に、「こうしたい」という具体的な目標を設定します。

目標は、収益を上げるために売上を上げたいとか、かかりすぎた経費をこの程度にしたとか経営者によって違って

くると思います。

その目標に向かつて問題点を解決する取組が経営改善です。

改善項目は、品目の見直し、規模の拡大、品質改善、出荷先の再検討、仕入業者の再検討、労働力の配分や確保等が上げられます。

改善しなければならぬ項目は複数あるかもしれませんが、優先順位をつけて計画して紙に書いてみる事が重要です。

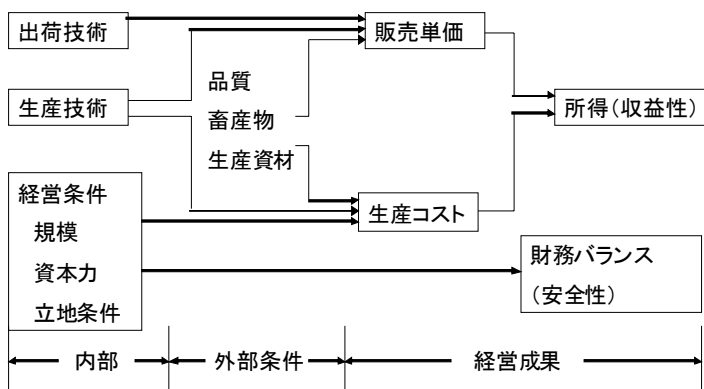
認定農業者になっている人は、改善計画書がイメージ出来ると思います。

長期目標を設定することも大切ですが一年ごとの目標設定が現実的な計画です。

○経営は変化し続ける

農業経営は、「日々の営み」という継続性の中にあります。世の中の変化に対応した仕組みを経営者がつくり出さなければなりません。

◆経営成果とその要因から次期計画を立てる



現状から目標に向かつて変化させることが経営改善です。変化させるための牽引力は経営者の意志であり変化を支えるのが経営者の技術です。自分の経営を見直す機会として平成二〇年の決算書を読み直して次期の改善計画を作成してみましょう。

新しく認証された農業士・指導 農業士のご紹介

農業士は、地域農業の推進者として活躍される青年農業者を指導農業士は、地域農業のリーダーとして後継者育成に尽力される方を知事が認証するものです。

新規認証者のプロフィール

☆農業士

○池谷 英幸 氏（成田市）

各青年組織の役員を経験し、リーダー的存在。サツマイモを中心とした露地野菜経営農家



○島田 隆 氏（成田市）

サツマイモの専業農家。地域ブランド「大栄愛娘」の販促活動に尽力、高品質のサツマイモを生産する。



☆指導農業士

○岩淵 公子 氏（八街市）

J A いんば八街地区の女性部初代部長で女性リーダー。施設野菜（スイカ、トマト。イチゴ）を中心とした経営



○江原 清 氏（四街道市市）

施設（イチゴ）＋露地野菜経営。遊休農地解消のため作業受託請負や幼稚園児のための農業体験に取り組む。



農業経営体育成セミナーの参加者を募集しています。

このセミナーは、新しく農業を始めた皆さんを対象に、同世代のネットワークづくりと、農業の基礎的、専門的な知識・技術を段階的に身に付けることを目的に開催しています。

・対象者：新規に就農した者
でおおむね35歳までの青年農業者

・内容：研修期間は3か年で、農家経営に必要な基本的知識、技術の習得を目的に現地視察、講義等

・開催場所：印旛農林振興センターを中心に、管内の現地研修等を組み合わせて
研修期間および日時：平成21年5月から平成22年3月まで

・参加経費：基本的に無料です（一部、必要経費をいただく場合があります）。

植林や間伐を行う方に助成

県では森林を所有している皆さんがスギや雑木などの樹木を伐採し、その跡地などに（10aあたり200本以上（植栽面積は0.05a以上）の植栽）杉ヒノキなどの苗木の植栽、植栽後行う下刈り（5年生まで）や2年生から45年生までの森林の間伐（間伐率1割以上）を行う場合及びスギ非赤枯性溝腐病の被害を受けた林の伐採や、伐採跡地に植栽する場合などに、事業費の一部を助成しております。なお、非赤枯性溝腐病関係は、成田市、佐倉市、八街市、富里市、酒々井町の森林が対象となります。

植栽や伐採（間伐）をお考えの方は、お住まいの市町村の森林関係窓口、森林組合印旛事業所（043-483-3770）、農林振興センターへお問い合わせください。